



令和6年3月28日

岩倉市議会

議長 関戸 郁文 様

会 派 名 自由クラブ

代表者名 大野 慎治

研修受講報告書

このことについて、下記のとおり受講しましたので報告いたします。

記

1 実施日 令和5年7月28日(金)

2 研修先 敦賀駅オルパーク2階

3 出席人数及び氏名

2名	大野 慎治	日比野 走

4 復命事項

別紙のとおり

## 第28回地方自治セミナー みんなで地域を活性化！

### 第1部 コミュニケーションスキルを磨こう！

コミュニケーション講師 しわやゆうこ

コーチングとは、コーチとクライアントと会話を重ねることによって、自己実現や目標達成に向けて「気づき」「行動」を効果的にサポートしていくコミュニケーション技術のことである。

#### ○違いは何か？

「コンサルティング」良い方向に導いてくれる。良い人をより良く。成功事例をもとに。

コンサルの中に正解がある。即効性がある。

「カウンセリング」悩みを減らし、解決する。マイナスをゼロに持っていく。

心が軽くなる、安心や平穏。

「コーチング」対話によって自己実現や目標達成をサポートしていく。

自立性を持たせる。自分自身で成長していけるようになる。

能力、才能を引き出す。視点（考え方）で考え方が増える

即効性はない。

#### ○コーチングを受けると何がかわるのか？

・今までより物事を捉える視点の数が増える。自分だけの考えではなく、視点の数が増えることにより物事を多角的・多面的に捉える事ができる。

・今よりもコミュニケーション力が向上する。コミュニケーション力が向上すると、人間関係が円滑になる。（目標達成するためのパートナーとの関係やチームを築くためには大切）

・コーチよりフィードバックをもらうことで、自分の状態や立ち位置を確認できる。どこに向かうべきか、何を改善しなければならないのかを確認できる。

#### ○マザー・テレサ

思考に気をつけなさい、それはいつか言葉になるから。

言葉に気をつけなさい、それはいつか行動になるから。

行動に気をつけなさい、それはいつか習慣になるから。

習慣に気をつけなさい、それはいつか性格になるから。

性格に気をつけなさい、それはいつか運命になるから。

○養老孟子

他人は互いにわかり合えないものです。分かり合えないからこそ、言葉があるのです。

○質問の仕方では答えが変わる

①お昼ご飯食べましたか？

②お昼ご飯は何をたべましたか？

クローズドクエスチョン⇒YES/NOなどの限られた答えを促す。

オープンクエスチョン⇒相手からいろいろな答えを引き出すことができる。

○質問だけでなく「聴くこと」も大切にする。

○未来に向けたオープンな質問が大切である

- ・未来に向けたオープンな質問とは
- ・次もっとやるためにはどうする？
- ・どんな状態になったら理想的ですか？
- ・1年後どうなっていたい？
- ・いつから始める？
- ・どんな人になりたいですか？
- ・目標は何ですか？

質問は、自分で聞きたいことを聞くのではなく、相手の気づきを促すために聞く

所感

今まで、「コンサルティング」「カウンセリング」「コーチング」の違いも分かっていなかったため、大変勉強になった。これからは質問の方法を未来に向けたオープンな質問になるように取組でいきたい。一般質問でも自分で聞きたいこと聞くのではなく、行政に気づきを促すことができるような質問に心掛けていきたい。

## 第2部 一般質問持ち寄りワールドカフェ方式

総合司会 黒部市議会議員 成川 正幸

- ・まずは現状を良く調べる
- ・議員の質問には個性が必要
- ・めんどろなどところに首を突っ込むから政策が浮かぶ
- ・行政の闇をオープンにする
- ・市民を置き去りにしない政策提言でなければいけない
- ・議員同士・職員とも馴れ合いにならないような政策提言を

- ・フリースクール補助制度を勉強する
- ・岡崎市のF組のような政策を勉強する
- ・保健の先生のなり手不足について勉強する

#### 所感

様々な意見交換をしながら、それぞれの議員が意見を言い合い、学ぶことができるワールドカフェ方式で行うことは大変勉強になりました。

### 第3部 ふるさと納税で地域を元気に！

企業版ふるさとの納税認定講師 前川 和治

#### ○ふるさと納税について

- ・返礼品にお金を払っていただくのではない。
- ・その地域のファンになってもらうことが大切である。
- ・返礼品はあくまでファンになっていただいたお礼の一品に過ぎない。
- ・ふるさと納税は自分が選んだ自治体に寄付をする行為である。
- ・誰もが1,788自治体から好きなところを選んで納税できる。
- ・この制度は当時の菅官房長官が2008年に制度化したと思われているが、実は福井県知事の西川一誠氏が2006年に発案し、都会と地方の不均衡を解消するために始まったものである。

#### ○地域（敦賀市）から国に税金が取られるだけではない

- ・保育園・小中学校・高校まで市で育った人が都会へ出て、進学や就職をする。これを防ぐことはできない。それなら、都会に出て行った皆様を生まれ故郷のファンになってもらうことが大切である。

#### ○伸びしろ

ふるさと納税の限界額は、約2兆円と言われているため、令和3年度において8,300億円が納税されているため、まだ約1兆2,000億円の伸びしろがある。ふるさと納税の限界人数は、約4,000万人と言われているため、現在600万人ほどが納税をしているため、まだ約3400万人の伸びしろがあると考えている。そのため、まだまだ今後もふるさと納税の見通しは明るいと考えている。

○市民が市外に向けて支払うふるさと納税額よりも、市外からの寄付を増やさなければ黒字とならない。実は赤字になっている自治体が多くあるため真剣に議員が考えなければならない。横浜市や名古屋市など大都市では赤字額が高額

である。

#### ○無限スパイラル

- ・ふるさと納税していただいた方を敦賀市のファンにすることが大切である。
- ・約 65%が税金として市に入る。
- ・約 3 分の 1 が返礼品を出す地元企業を潤すことができる。
- ・納税者は市県民税を控除され実質少ない金額で得をすることができる。
- ・地元企業が儲かるため事業を拡大し、雇用を創出することができる。
- ・企業の納税額が増え、転入者も増えてくる。
- ・就職や進学で都会に出ていく若者が都会で成長し、文字通り故郷である敦賀市にふるさと納税してくれれば、このスパイラルは永遠に続く。現実、ふるさと納税が大幅に上がった自治体の納税額は止まることを知らないくらい大きく伸びている。

#### ○市外に多くのファンをつくる

- ・サポーター登録をしていただき、観光大使になってもらう。
- ・転出した皆様に DM などでもふるさと納税を促す。
- ・メルマガ登録をしていただいて、10 日に 1 回のペースでメルマガを配信返礼品を常々リニューアルしたり、工夫したりする。

#### ○敦賀市の場合・・・ふるさと納税額 77 億円の内訳

- ①返礼品代 23.0 億円・・・地元企業が活性化する
- ②送料 6.8 億円・・・運送会社に支払う
- ③WEB系歳費 6.8 億円・・・中間業者に支払う
- ④自治体業務委託費 9.0 億円・・・中間業者に支払う
- ⑤市に残る寄付金 31.4 億円・・・利益である

そこで、③と④の中間業者を市内事業者任せることで、またそこから税収が上がるくるスパイラルも大切。

①から新規就農事業者が起業した。

①から地元業者の販路が広がり、収益増となった。

①や②から企業誘致用の土地を市職員が汗をかかなくても地元業者が買ってくれた。産業団地ができた。

①、③、④から新規雇用が生まれた。

①、③、④から企業が県外から移住をして、人口が増えた。

①～⑤において、本来は行政がやっている仕事を全て民間企業がやってくれるように変わった。

## 所感

本市においても、ふるさと納税していただける方々を岩倉市のファンになっていただくような取組をさらに進める必要があると考える。ふるさと納税から地元業者の販路が拡大するような取組を進めることができるように商工会と共に行政としても応援できる体制づくりができるようになることが大切であると強く感じました。本市もふるさと納税制度が実質赤字であるため、せめて収支をゼロまでに持っていく取組が必要である。

### ・研修費用

交通費 一宮 IC～敦賀 IC 2,910円

敦賀 IC～一宮 IC 2,910円

ガソリン代 1,526円

研修費 5000円×2名=10,000円